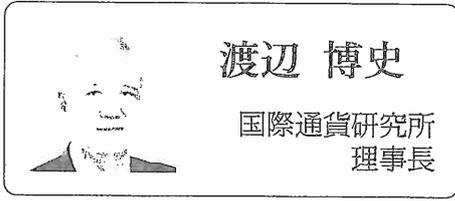


# 地球を 読む

3月に欧州で開かれた二つの会合に出席した。開催地は、不安定化した欧州の命運を担う独仏の首都であるベルリンとパリだが、議論の対象は全世界をカバーする内容だった。

テーマは「Multilateralism(多国間主義)の維持」と「Inequality(不平等)の解消」である。今や各地で開かれる国際会議のほとんどがこの二つをテ



渡辺 博史

国際通貨研究所  
理事長

## 反多国間主義

テーマに取り上げている。背景には、この二つが既

に大きく毀損しているか、あるいは一層強く攻撃される動きが世界的に顕在化していることがある。

反多国間主義を巡る各国の主張は、国外に向けて訴

えられるという性格上、外部から認められ、さらにはその対応策が取られて

部からも認知しやすい。一方で、国内の既得権益を持つ

意識を変え、当該国の対外姿勢にも影響を与えるとい

う動きは、外部から早期に認識するのが難しい。

たって、特に悩ましいのは、国内総生産(GDP)の成長率、あるいは一人当たりGDPといった集計値、平均値だけを見ては、問題の深刻度がかめないと

いう点である。

全ての国家構成員が同額の所得を得ることは、理念上は可能でもこれまでに実現した例はない。所得額はそれぞれの能力と努力、言い換えれば才能と汗に連動しており、他の外的な経済要因が加わって増減し、個人ごとに異なってくる。

## 分配無策「外」に責任転嫁

この二つのテーマは並列で同根というわけではな

い。まず国内の問題がくすぶり、国外の話が加わって

火に油を注ぐ格好となり、一気に燃え上がるように見える。少し皮肉な見方をすれば、国内問題の原因の認

このように国民の所得にはばらつきがあっても、かなり高い成長率の下では、所得の最も低い階層でも幾ばくかの所得増が見られる。一番高い階層が著しく伸びるだけでなく、集計値や平均値に加え、最も少ない所得者の実所得の伸びも全てプラスになる。

しかし、成長率が下がってくると、集計値、平均値の伸びはプラスでも、低所得層はマイナスになる可能性が高くなる。生活が悪化したこうした階層への目配りが乏しくなると、政府に対して、「無策」という批判が当然、強くなる。

△2面に続く▽

# 地球を 読む

1面の続き

渡辺博史氏 1949年生  
まれ。財務省国際局長、財務  
省、国際協力銀行総裁などを  
経て2016年10月から現  
職。経済に関する著作多数。

中間層というべき国民  
は、未熟練労働者ではなく、  
相応の熟練技能を有する者  
が多い。新規の労働者には  
能力的に勝っているという  
自負があり、単に労働力の

この階層への効果的な政  
策的対応が、21世紀に入っ  
てから各国でほとんど行わ  
れず、それぞれの所得階層  
が上下移動せずに、世代を  
超えて固定化されることが  
多いため、「今日も明日も  
俺は貧しい」「俺も子供も  
状況は変わらない」という  
認識が広がっている。

この階層への効果的な政  
策的対応が、21世紀に入っ  
てから各国でほとんど行わ  
れず、それぞれの所得階層  
が上下移動せずに、世代を  
超えて固定化されることが  
多いため、「今日も明日も  
俺は貧しい」「俺も子供も  
状況は変わらない」という  
認識が広がっている。

このように国内における  
政策対応のまずさが国際関  
係に負の影響を与えている  
が、これは一国内の話だけ  
ではない。地域全体の成長  
にも関係してくるゆゆしき  
問題である。

間もなく「平成」が終わ  
ろうとしている。平成は、  
本稿で述べた課題に取り組  
むのに、まさにふさわしい  
時代だった。この間、日本  
社会で格差の拡大がなかつ  
たとは言えないが、他国に  
比べれば、政府はそれなり  
の対応をしており、近隣諸  
国からも評価されている。  
新元号は「令和」である。

## 発展に地域見渡す視点

これまでの所得再配分政  
策や福祉政策は、財政上の  
制約から対象を絞り込んで  
きた。その結果、例えば、  
上中下の所得階層を「上の  
上」から「下の下」までの  
9階層に分類した場合、「下  
の下」と「下の中」は政策  
の恩恵を受けるが、「下の  
上」から「中の上」に及ぶ  
階層は多くの場合、その対  
象に入らなかった。

供給が増えることに伴う賃  
金の低下を簡単には受け入  
れがたい傾向がある。

さらに、革新的技能によ  
って自らの熟練分野が新し  
い労働力に蚕食されざる  
を得ないという認識が乏し  
いため、賃金・雇用という  
労働環境の悪化に対する不  
満がたまりがちで、その矛  
先は政府批判に容易に向か  
うことになる。

階層への不満がくすぶり、  
政府の無策に対する批判が  
増幅してきたのである。政  
府も、これに真正面から向  
き合おうとせず、一因でし  
かない行き過ぎた「国際化」  
を全ての元凶と決めつけ、  
保護主義や閉鎖主義に走る  
例が増えている。

貿易競争やそれに伴う輸  
入増などの結果として起こ  
る勤務先の業績不振は、海  
その意味では、国内の所  
得再配分政策が無策であれ  
ばあるほど、国民を巻き込  
んだ「アンチ多国籍主義」  
の動きが増幅される。

「アジア経済が良い」こ  
とは事実だが、それが、域  
内大国の活発な動きに感わ  
されていないだろうか。他  
の中小国の状況は、単に競  
争の中で出遅れ、埋没して  
いるだけなのか。それとも、  
大国の急速な発展のあおり  
を受けたものなのか。これ  
らを冷静に点検しないと、  
地域内の公平感を阻害し、  
結果として地域の安全保障  
をも損なうことになる。全  
てに目が行き届いた発展の  
対象空間は、国内のみなら  
ず、地域全体とするのが望  
ましく、それは当然のこと  
ながら、世界全体の話につ  
ながっていく。

この階層分類は国民の自  
己意識によるもので、必ず  
しも均等に分類されておら  
ず、中間層に比較的大きな  
人口の塊が生じる。その多  
くが「自分は国の政策の恩  
恵を受けていない」という  
疎外感を抱いている。

「反国際化」の機運が醸成  
されていくのではないか。  
その意味では、国内のみなら  
ず、地域全体とするのが望  
ましく、それは当然のこと  
ながら、世界全体の話につ  
ながっていく。

英文はあすのジャパン・ニ  
ューズに掲載する予定です